

神石高原地域創造チャレンジ基金

評議員会議案書

議案

第1号議案 令和元年度 収支決算報告

第2号議案 令和2年度 事業活動計画

第3号議案 令和2年度 予算計画

神石高原地域創造チャレンジ基金は、新しいタイプの地域に貢献する基金として、2017年9月に設立。おかげさまで、令和2年度で4期目を迎えることとなりました。

当法人は、神石高原町地域における産業の振興をはかり、地域のにぎわいを創出することにより、当該地域の事業体の運営を支援し、当該地域が継続的なコミュニティとして発展拡大することに寄与することを目的に設立されたもので、新しいタイプの基金として資金的支援に加えて非資金的支援としての「伴走型支援」と呼ぶ経営指導を一緒に実施していくことで、事業者の経営安定化と自律運営の早期達成を目指します。この極端に少子高齢化と人口減少が進行した神石高原町であるからこそ、新しい事業創造を図り、地域の活性化、にぎわい創出に繋げていきたいという現町長の強い決意から生み出されたものです。

前年度は設立3期目となり、前年度と同様に上半期と下半期において2回の支援案件公募を実施し、引き続き多くの皆様方に説明会・セミナーへのご参加および実際の案件申し込みをいただき、選定委員会を経て、複数の案件支援決定を実施できました。また現在までに資金支援決定済みの案件についても、経営的支援+資金支援を実行し、事業の推移を見守りながら、支援先の意向に沿った形での伴走支援を継続しております。

現在までに5回の案件募集におきまして、申し込みベースではありますが累計22件、4億円を超える支援依頼を頂戴し、この地域においてチャレンジする姿勢をもった事業者を顕在化させてまいりました。申し込みいただいた業種も、農産物生産加工中心に、サービス、観光、インフラ関連等々と多岐にわたります。このようにこの3期を通じ、地域における潜在的な資金調達ニーズは明らかにあり、また業種も幅広いものという手ごたえをもっております。そしてこれからも引き続き神石高原において事業創造を検討する事業者はいらっしゃるという想いも強くもっております。今後とも、地方創生・地域創造におけるひとつのロールモデルとして、ノウハウを蓄積し、発信をしてまいります。

弊基金の運営に多大なるご助力をいただいております数多くの皆様のご厚情に感謝申し上げますと共に、新しいビジネスチャレンジ事業者の成功と次世代に対しての資金循環をもって、基金の成長として、期待に応えてまいりたいと存じます。引き続きのご支援のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

ご報告事項： 令和元年度事業報告

【前年度の事業活動方針】

<事業計画の基本方針>

極端に少子高齢化と人口減少が進行した神石高原町であるからこそ、次代を担う人材の新しいチャレンジをどんどんと応援することで新しい事業創造を図り、地域の活性化、にぎわい創出に繋げていきたいという決意のもとにスタートをきった神石高原地域創造チャレンジ基金は、第3年度を始めるにあたり、さらに拡大して地域の活性化をめざして運営してまいります。

引き続き「住民主役事業」に対し、本年度も合計3,000～5,000万円程度の資金支援実行をめざします。現在までに採択された事業先に対しては実行要件をクリアしたうえで、資金支援実行を確

実に行い、各支援案件に対しては支援先と協議を進め、経営的にも妥当でかつ支援先が望む形での経営実行の支援を実現していきます。継続支援を通じて各案件の事業価値が向上し、長期的に当初の資金支援部分が基金に償還されることで、地域資源が循環してその時点での地域活性化を目指して事業チャレンジする対象に資金支援が実行できることを目指します。また、全国的にもユニークな新しいタイプの基金として積極的に広報すると共に、横展開を図っていきます。

基金からの資金支援および運営に振り向ける資金を引き続き、民間からも広く寄付を募集。本年も継続獲得をめざして募集広報活動を実施いたします。

<前年度の実行目標>

- 事業募集の継続（年2回）説明会、個別相談会の運営、事業評価選定委員会の開催
- ビジネスチャレンジ事業者を継続して呼び込むために、他団体と協働して事業計画勉強会などの取組を継続する
- 既存支援先に対しては次年度引継ぎを的確に行い、経営的支援など具体的支援を継続し、ビジネス事業者の経済的・事業的な自律を目指す
- 念願である公益法人化を果たし、個人、NPO、金融機関、企業等法人からの寄付を拡大する
- 神石高原町に留まらず、内外での認知度を継続して向上させる

また、事業の範囲として、定款には以下の4項目を掲げております。

【実施する事業】

- (1)産業の振興及び地域のにぎわいの創出に関する情報提供、普及・啓発に係わる事業
- (2)上記事業を運営する事業体への事業資金支援
- (3)上記事業を運営する事業体への事業運営支援
- (4)その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

<産業の振興及び地域のにぎわいの創出に関する情報提供、普及・啓発に係わる事業>

【事業募集から選定、支援開始まで】

- ・第4回申込募集（期間：R1年7月1日～R1年8月31日）
- ・事業募集説明会の神石高原町内への有線放送での告知(説明会前日・当日)
- ・事業募集説明会を実施（R1年7月17日、18日、8月7日）：合計3回、参加団体5件（うち1回は事業計画作成講習も併せて実施）
- ・個別相談会実行（7月1日～8月31日、随時）：合計、参加団体3件
- ・募集締め切り時(R1年8月31日)、申込件数および金額（2件、4,000万円）
- ・申込者面談および案件相談の実施（R1年9月前半にて全先実施）
- ・最終申込件数（2件、4,000万円）
- ・事務局にて、チェックシートによる事業計画内容を検討(R1年9月前半)
- ・第4回事業評価選定委員会の開催(H30年9月26日)、支援候補を理事会に答申

- ・理事会にて、支援先の方針を採択(R1年9月26日)
 - ・資金支援候補先との個別協議、調整(R1年9月27日～)
 - ・最終案件採択件数および金額(1件、1,000万円)
- ・第5回申込募集(期間：R1年12月1日～R2年1月31日)
- ・事業募集説明会の神石高原町内への有線放送での告知(説明会前日・当日)
 - ・事業募集説明会を実施(R1年12月12日、13日、R2年1月8日)：合計3回
(うち1回は事業計画作成講習も併せて実施)参加団体6件
 - ・個別相談会実行(R1年12月1日～R2年1月31日、随時)：合計、参加団体2件
 - ・募集締め切り時(R2年1月31日)、申込件数および金額(5件、7,450万円)
 - ・申込者面談および案件相談の実施(R2年2月前半にて全先実施)
 - ・最終申込件数(5件、7,450万円)
 - ・事務局にて、チェックシートによる事業計画内容を検討(R2年2月前半)
 - ・第5回事業評価選定委員会の開催(R2年2月18日)、支援候補を理事会に答申
 - ・理事会にて、支援先の方針を採択(H31年2月19日)
 - ・資金支援候補先との個別協議、調整(H31年2月後半より継続)
 - ・最終案件採択件数および金額(2件、740万円)

<上記事業を運営する事業体への事業資金支援>

⇒年度内に採択および資金支援実行した案件は以下の5件：資金支援実行分3件合計2,300万円

- ① ㈱ナオライ神石高原：資金支援額 300万円・・・平成30年度採択案件
(支援対象) 浄酎製造販売業。第一回販売のための製造関連資金
(実行要件) 月次資金繰りおよび販売実績の確認
- ② ㈱ヴィレッジホーム光末：資金支援額 1,000万円・・・平成29年度採択案件
(支援対象) 神石牛の繁殖から肥育までの一貫経営の拡大
(実行要件) 平成29年度採択案件の分割分。想定通りの推移であるため支援実行
- ③ ㈱ヤマテツ Rising：資金支援額 1,000万円・・・令和元年度採択案件、期中に実行
(支援対象) ボーリングおよび水道関連事業の別事業者からのスピンアウト関連資金
(実行要件) 月次資金繰りの確認。地元へのサービスの還元
- ④ ㈱ダストマンズ：資金支援額 500万円・・・資金支援実行は令和2年度予定
(支援対象) 動画コンテンツ作成に関する教育事業の強化資金
(実行要件) 油木高校の動画クラブ運営へのコミット継続とコンテンツの優先的利用
- ⑤ ㈱ドローンシナリー：資金支援額 240万円・・・資金支援実行は令和2年度予定
(支援対象) ドローンスクール運営および関連事業の起業資金
(実行要件) 協力会社とのコミット継続と会社設立後に資金支援実行

<上記事業を運営する事業体への事業運営支援および概況>

- 合同会社中ちゃん農園(第1回：200万円資金支援実行済)
- ⇒ 西日本豪雨被害からのリカバーを目的にGCFの構築等を支援。事業再興され、当初想定通り、

2020年4月に第1回償還実行予定

- (株)ヴィレッジホーム光末（第1回：1,000万円、第2回が1,000万円で計2,000万円資金支援実行済）
⇒ オール広島での支援体制を構築し、当初想定通りの事業運営を遂行。資金実行承認済みの分割分2回目の資金支援（1,000万円）を実行。子牛用牛舎を拡充して事業拡大を継続
- (株)サンリソース（第1回：1,000万円、資金支援実行未済）
⇒ 各種調整および体制組み替えに時間を要しており、法的要件再確認の上、再度詳細検討中
- (株)フェアトラベルジャパン（第2回、1,000万円。資金支援実行済）
⇒ 当初想定より修繕着工のタイミングが大幅にずれ込み、今年7月中に完工し、営業開始予定
- (株)ナオライ神石高原（第3回、300万円。資金支援実行済）
⇒ 第1回の販売のクラウドファンディングは当初300万円の設定を大幅に上回る500万円強を売り切る。今後は先方意向で、財務アドバイザーに資金運営等支援を依頼済
- (株)ヤマテツ Rising（第4回、1,000万円。資金支援実行済）
⇒ 新会社の設立はスムーズに実行され、当初想定を大幅に上回る受注を達成。今後は資金繰り等慎重に見込んだ上で、実績を確認していく

・(株)ダストマンズと、(株)ドローンシナリーは今後先方の意向も確認しながら、運営支援体制を構築し、具体的な支援を実行予定

<その他、当法人の目的を達成するために必要な事業>

●組織基盤の確立と運営

【評議員会】R1年6月3日

H30年度の決算および事業活動報告とR1年度の予算および事業活動計画の承認

【理事会（メール等による電子決済は必要な場合、随時遂行）】

<第6回理事会> R1年5月16日

- ・H30年度の決算および事業報告書の検討
- ・R1年度の予算および事業計画書の検討
- ・R1年度の公募方針の確認
- ・理事の選任について
- ・評議員会の開催について

<臨時理事会>R1年7月16日

- ・第3回に採択されていた個別案件について、個別案件の検討内容を確認して方針決定

<第7回理事会> R1年9月26日

- ・第4回募集案件について検討
- ・事業評価選定委員会からの答申を受けて事業者の方針決定
- ・基金運営施行細則について

<臨時理事会>R1年11月1日

- ・第4回に採択されていた個別案件について、個別案件の検討内容を確認して方針決定

<第8回理事会> R2年2月18日

- ・第5回募集案件について検討
- ・事業評価選定委員会からの答申を受けて事業者の方針決定
- ・今後の運営体制を地元の方々にも入っていただき一層強化することを確認

<臨時理事会>R2年3月26日

- ・第5回の個別案件について再検討内容に関する事業評価選定委員会答申をうけて方針決定

【公益法人化】

理事会での方針決定を受けて、広島県公益認定等委員会及び所管する広島県庁と公益財団法人への移行に関する方針を伝えて検討継続している。基金の運営体制を強化したタイミングで、再度移行に関するの方針およびタイミングを検討する予定。

【事業評価選定委員会】

<第4回評価選定委員会>R1年9月26日

- ・第4回の募集案件の検討と採択
- ・事務局で整理した事業案件についての審査を行い、理事会に対して答申

<第5回評価選定委員会>R2年2月18日

- ・第5回の募集案件の検討と採択
- ・事務局で整理した事業案件についての審査を行い、理事会に対して答申

<臨時評価選定委員会>R2年3月25日

- ・第5回答申後の個別案件について、再検討内容の審査を行い、理事会に対して再答申

●業務運営基盤の継続運営

- ・定常運営業務関連および広報関連業務の地元スタッフへの移行に向けた体制構築
- ・会計関連業務の定型化と、決算・財務関連業務運営体制の確立
- ・公益法人化も想定して、運営体制の継続的な改善を実行

●収益基盤の確立

- ・ふるさと納税紹介サイト「ふるさとチョイス」で、ふるさと納税の使い道として、チャレンジ基金を選んでいただいた実績は今年度、合計89万円の寄付を頂戴し、基金の運営支援の資金プールとし引き続き活用させていただいた。
- ・直接寄付は今年度は0件であった。
- ・今年度も地元金融機関に対して、基金の運営状況の説明と事業募集への協力と共に、基金への寄付依頼を行った。
- ・今年度も地元の有力企業、団体などについて、基金の運営状況説明と事業募集の説明、基金へ

の寄付依頼を行った。

・収益基盤の拡大を志向し、休眠預金の指定活用団体および活用事業に申請したが、どちらも不採択となった

●基金の広報関連

- ・ホームページ (jinseki-kikin.jp) の開設：トピックス記事 11 件掲載
- ・ニュースリリースの公開、合計 5 件
- ・フェイスブックアカウントの開設：いいね 55 件、フォロワー 59 名各種リーチは 350 名以上、ニュースは常時アップし、合計 13 件以上発信 (HPにも掲載)
- ・関連記事の新聞掲載：合計掲載 2 件
- ・基金関連メディア掲載記事は合計 2 件
- ・企業および団体への周知挨拶実施：合計 3 件

●後援・協賛・協力名義について

1.以下の事業に共催・後援・協力名義の使用を許可した。

【共催】

特になし

【後援】

特になし

【協力】

特になし

2.チャレンジ基金として、以下の会合に参画・提言を行った。

■[会議参加]

特になし

3.チャレンジ基金が、加盟している団体、連合体は以下の通り

神石高原町法人会

第1号議案：

前年度の決算は以下の通りである。

正味財産増減計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

一般会計

(単位：円)

科 目	当 年	前 年	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取寄附金	[2,108,260]	[1,710,904]	[397,356]
受 取 寄 附 金	0	0	0
受 取 寄 附 金 振 替 額	2,108,260	1,710,904	397,356
② 受取補助金	[5,000,000]	[5,000,000]	[0]
受 取 補 助 金	5,000,000	5,000,000	0
③ 雑収益	[401]	[454]	[△ 53]
受 取 利 息	401	454	△ 53
経 常 収 益 計	7,108,661	6,711,358	397,303
(2) 経常費用			
① 事業費	[3,887,576]	[4,177,716]	[△ 290,140]
役 員 報 酬	300,000	300,000	0
給 料 手 当	2,400,000	0	2,400,000
業 務 委 託 費	0	2,439,612	△ 2,439,612
旅 費 交 通 費	1,146,094	1,414,950	△ 268,856
通 信 運 搬 費	9,482	11,274	△ 1,792
租 税 公 課	32,000	10,800	21,200
支 払 手 数 料	0	1,080	△ 1,080
② 管理費	[3,150,085]	[2,407,746]	[742,339]
役 員 報 酬	300,000	300,000	0
給 料 手 当	1,229,928	0	1,229,928
業 務 委 託 費	0	1,045,548	△ 1,045,548
謝 金	300,000	291,404	8,596
旅 費 交 通 費	747,634	540,833	206,801
通 信 運 搬 費	9,483	17,059	△ 7,576
消 耗 品 費	0	0	0
地 代 家 賃	30,000	30,000	0
諸 会 費	6,000	0	6,000
租 税 公 課	10,900	1,000	9,900
支 払 手 数 料	516,140	181,902	334,238
経 常 費 用 計	7,037,661	6,585,462	452,199
当期経常増減額	71,000	125,896	△ 54,896
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	[0]	[0]	[0]
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経常外費用	[0]	[0]	[0]
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	71,000	125,896	△ 54,896
法人税、住民税及び事業税	71,000	125,896	△ 54,896
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	3,031,500	3,031,500	0
一般正味財産期末残高	3,031,500	3,031,500	0
II 指定正味財産増減の部			
受 取 寄 附 金	0	1,000,000	△ 1,000,000
受 取 補 助 金	895,510	2,696,000	△ 1,800,490
一般正味財産への振替額	2,108,260	1,710,904	397,356
当期指定正味財産増減額	△ 1,212,750	1,985,096	△ 3,197,846
指定正味財産期首残高	11,985,096	10,000,000	1,985,096
指定正味財産期末残高	10,772,346	11,985,096	△ 1,212,750
II 正味財産期末残高	13,803,846	15,016,596	△ 1,212,750

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却方法 有形固定資産・・・定額法
繰延資産・・・均等償却
- (2) 消費税等の会計処理 税込方式

2. 固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高 (単位：円)

科 目	取 得 価 額	減 価 償 却 累 計 額	当 期 末 残 高
	0	0	0
合 計	0	0	0

3. 特定資産の増減及びその残高 (単位：円)

科 目	金 額	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	当 期 末 残 高
普 通 預 金	52,985,096	895,510	25,108,260	28,772,346
投 資 有 価 証 券	22,000,000	23,000,000	0	45,000,000
合 計	74,985,096	23,895,510	25,108,260	73,772,346

4. 特定資産の財源の内訳 (単位：円)

科 目	金 額	う ち 一 般 正 味 財 産 か ら の 充 当 額	う ち 指 定 正 味 財 産 か ら の 充 当 額	う ち 負 債 に 対 応 す る 額
普 通 預 金	28,772,346	3,000,000	10,772,346	15,000,000
投 資 有 価 証 券	45,000,000	0	0	45,000,000
合 計	73,772,346	3,000,000	10,772,346	60,000,000

5. その他

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年	前 年	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	1,156,723	2,190,771	△ 1,034,048
流動資産合計	1,156,723	2,190,771	△ 1,034,048
2 固定資産			
特定資産			
現金預金	28,772,346	52,985,096	△ 24,212,750
投資有価証券	45,000,000	22,000,000	23,000,000
特定資産合計	73,772,346	74,985,096	△ 1,212,750
固定資産合計	73,772,346	74,985,096	△ 1,212,750
資産合計	74,929,069	77,175,867	△ 2,246,798
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	861,324	2,064,282	△ 1,202,958
未払法人税等	71,000	71,000	0
預り金	192,899	23,989	168,910
流動負債合計	1,125,223	2,159,271	△ 1,034,048
2 固定負債			
長期借入金	60,000,000	60,000,000	0
固定負債合計	60,000,000	60,000,000	0
負債合計	61,125,223	62,159,271	△ 1,034,048
III 正味財産の部			
1 一般正味財産	3,031,500	3,031,500	0
2 指定正味財産	10,772,346	11,985,096	△ 1,212,750
正味財産合計	13,803,846	15,016,596	△ 1,212,750
負債及び正味財産合計	74,929,069	77,175,867	△ 2,246,798

附属明細書

附属明細書に記載すべき事項は、財務諸表に対する注記に記載した。

CHALLENGE

神石高原地域創造チャレンジ基金

令和1年度 正味財産増減計算書内訳表

平成31年4月1日～令和2年3月31日

一般会計

(単位：円)

科 目	産業振興・ 地域活性化支援事業	法人会計	法人合計
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取寄附金	[537,457]	[1,570,803]	[2,108,260]
受取寄附金	0	0	0
受取寄附金振替額	537,457	1,570,803	2,108,260
② 受取補助金	[3,350,000]	[1,650,000]	[5,000,000]
受取補助金	3,350,000	1,650,000	5,000,000
⑤ 雑収益	[119]	[282]	[401]
受取利息	119	282	401
経常収益計	3,887,576	3,221,085	7,108,661
(2) 経常費用			
役員報酬	300,000	300,000	600,000
給料手当	2,400,000	1,229,928	3,629,928
業務委託費	0	0	0
謝金	0	300,000	300,000
旅費交通費	1,146,094	747,634	1,893,728
通信運搬費	9,482	9,483	18,965
消耗品費	0	0	0
地代家賃	0	30,000	30,000
諸会費	0	6,000	6,000
租税公課	32,000	10,900	42,900
支払手数料	0	516,140	516,140
経常費用計	3,887,576	3,150,085	7,037,661
当期経常増減額	0	71,000	71,000
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	[0]	[0]	[0]
(2) 経常外費用	[0]	[0]	[0]
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前 当期一般正味財産増減額	0	71,000	71,000
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	71,000	71,000
法人税、住民税及び事業税	0	71,000	71,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	3,031,500	0	3,031,500
一般正味財産期末残高	3,031,500	0	3,031,500
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	0	0	0
受取補助金	895,510	0	895,510
一般正味財産への振替額	537,457	1,570,803	2,108,260
当期指定正味財産増減額	358,053	△ 1,570,803	△ 1,212,750
指定正味財産期首残高	7,868,391	4,116,705	11,985,096
指定正味財産期末残高	8,226,444	2,545,902	10,772,346
正味財産期末残高	11,257,944	2,545,902	13,803,846

CHALLENGE

神石高原地域創造チャレンジ基金

財産目録

令和2年3月31日現在

(単位：円)

科 目	場所・物量等	使用目的等	金額
I 資産の部			
1 流動資産			
普通預金	広島銀行油木支店	運転資金として	1,156,723
		流動資産合計	1,156,723
2 固定資産			
特定資産			
普通預金	広島銀行油木支店	使途指定寄附金 寄附者の指定した用に供するために管理している	7,180,836
	福山市農業協同組合三和支店	使途指定補助金(事業支援先分)	3,591,510
	広島銀行油木支店	町の指定した用に供するために管理している	
	福山市農業協同組合三和支店	使途指定借入金	15,000,000
		貸付者の指定した用に供するために管理している	
	広島銀行油木支店	設立時拠出金 運用益を公益目的事業の用に供している	3,000,000
		普通預金 計	28,772,346
投資有価証券	中ちゃん農園	地域振興事業に係る私募債	2,000,000
	ヴィレッジホーム光末	地域振興事業に係る第三者割当増資分株式	20,000,000
	フェアトラベルジャパン	地域振興事業に係る私募債	10,000,000
	ナオライ神石高原	地域振興事業に係る私募債	3,000,000
	ヤマテツライジング	地域振興事業に係る私募債	10,000,000
		投資有価証券 計	45,000,000
		特定資産合計	73,772,346
		固定資産合計	73,772,346
		資産合計	74,929,069
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金		事業旅費交通費	861,324
未払法人税等			71,000
預り金		源泉所得税	192,899
		流動負債合計	1,125,223
2 固定負債			
長期借入金	事業資金借入	神石高原町	60,000,000
		固定負債合計	60,000,000
		負債合計	61,125,223
III 正味財産の部			
1 一般正味財産			3,031,500
2 指定正味財産			10,772,346
		正味財産合計	13,803,846

第2号議案

【今年度の事業活動方針】

<事業計画の基本方針>

少子高齢化と人口減少が進行した神石高原町であるからこそ、次代を担う人材の新しいチャレンジを継続して応援することで、新しい事業創造を図り、地域の活性化、にぎわい創出に繋げていくという決意のもとにスタートをきった神石高原地域創造チャレンジ基金は、第4年度を始めるにあたり、さらに活動を深化して地域の活性化をめざして運営してまいります。

今年度は、コロナ禍という全世界が体験したことのないような未曾有の事態の下ではありますが、基金としては、このような状況におきましても、我々の役割を認識し、引き続き「住民主役事業」に対し、本年度も合計3,000～5,000万円程度の資金支援実行をめざします。現在までに採択され支援を開始している支援先に対しては、支援先と協議を進め、経営的にも妥当でかつ支援先が望む形での経営実行の支援を引き続き実施してまいります。

また今年度は支援案件より、第1回目のご償還を実施いただく予定です。今後その他の案件でも予定通りにご償還いただけるように、各案件の事業価値の向上の支援を継続したいと考えております。ご償還いただいた資金につきましては、本体に充足させてしまうのではなく、さらに地域へ再投資することによって、より地域活性化へ貢献できることを目標としております。これからも全国的にもユニークな基金として積極的に広報すると共に、横展開を図っていきます。

基金からの資金支援および基金の運営に振り向ける資金を引き続き、民間からも広く寄付を募集し、本年も継続獲得をめざして募集広報活動を実施いたします。

<本年度の実行目標>

- 事業募集の継続(年2回)説明会、個別相談会の運営、事業評価選定委員会の開催
- ビジネスチャレンジ事業者を継続して呼び込むため、他団体とも協働して事業計画作成勉強会などの取組を引き続き実施する
- その他の勉強会や、先端地域の視察ツアー等、新しい取り組みの実施を検討する
- 新型コロナに関連して、基金としての施策対応の可能性を検討
- 既存支援先に対しては、経営的支援など具体的支援を継続し、ビジネス事業者の早期の経済的・事業的な自律を目指す
- 基金の実質運営体制については、現地の方々中心に実行できるように体制を移行していく
- 当初から検討している公益法人化についてはメリットを再度検証し、今後の方針を確定する
- 神石高原町に留まらず、地域内外での認知度を継続して向上させる
- 広報に活用できるように基金の活動報告書を作成し利用しての周知につとめる

<本年度の概要スケジュール>

- ・7月～8月:第6回事業募集

CHALLENGE

神石高原地域創造チャレンジ基金

- ・9月 :第6回支援先採択
- ・10月以降:案件毎順次支援開始
- ・12月～1月:第7回事業募集
- ・2月 :第7回支援先採択
- ・3月以降 :案件毎順次支援開始

以上

第3号議案

【今年度の予算計画】

正味財産増減計画書

		R2年度予算
1 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 受取寄附金		[8,256,700]
受取寄附金		100,000
受取寄附金振替額		8,156,700
② 受取補助金		[1,000,000]
受取補助金		0
受取補助金振替額		1,000,000
③ 雑収益		[300]
受取利息		300
		0
経常収益計		9,257,000
(2) 経常支出		
① 事業費		[6,055,000]
役員報酬		75,000
業務委託費		2,100,000
給与手当		1,470,000
旅費交通費		990,000
通信運搬費		50,000
広告宣伝費		300,000
会議費		20,000
委託費		1,000,000
雑費		50,000
租税公課		
② 管理費		[3,131,000]
役員報酬		75,000
業務委託費		1,050,000
給与手当		730,000
旅費交通費		650,000
通信運搬費		20,000
消耗品費		0
地代賃		30,000
租税公課		10,000
支払手数料		250,000
謝金		300,000
諸会費		6,000
雑費		10,000
経常費用計		9,186,000
当期経常増減額		71,000
2 経常外増減の部		
当期経常外増減額		0
税引前当期一般正味財産増減額		71,000
法人税、住民税及び事業税		71,000
一般正味財産期首残高		3,031,500
一般正味財産期末残高		3,031,500
指定正味財産増減の部		
受取寄附金		2,000,000
受取助成金		[1,000,000]
(運営補助金)		0
(ふるさと納税分)		1,000,000
一般正味財産への振替額		[9,156,700]
(寄附金【運営】振替)		8,156,700
(寄附金【資金】振替)		
(補助金振替)		1,000,000
指定正味財産期首残高		11,985,096
指定正味財産期末残高		5,828,396
II 正味財産期末残高		8,859,896

以上